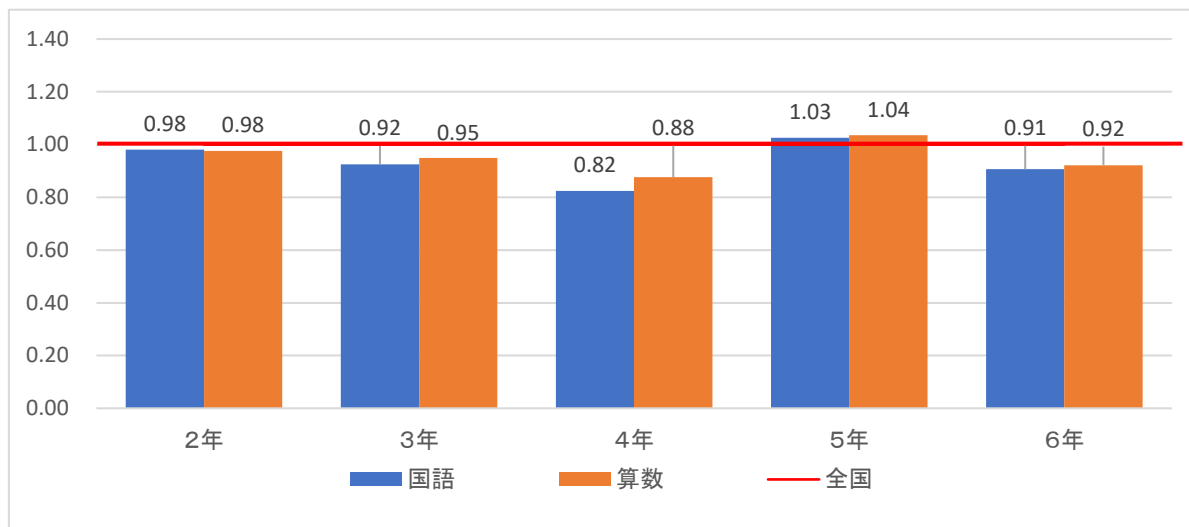


令和6年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第十中学校区 三井小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	「漢字の読み・書き」や「調べたことをもとに文章を書く」など、基礎・基本の定着に課題がみられた。今後も、漢字の定着や意見をまとめる学習活動に注力していく。
	算数	2・3年生では活用問題が全国平均を上回ったが、全体的には「計測」に係る設問に課題がみられた。今後も、四則計算や単位に関する学習場면을重点化していく。
全国学力・学習状況調査	国語	事実と感想とを区別して書くなど「書くこと」領域の得点が高かったが、目的や意図に応じて話し合う内容を検討するなど「話すこと・聞くこと」領域において課題がみられた。今後、記録・要約・説明・論述・話し合いなどの言語活動を充実させていく。
	算数	「図形」「数と計算」「データの活用」領域の正答率に課題がみられた。知識理解については正答率が高いが、「思考・判断・表現」については正答率が低い。今後、さらにデータを読み取り、読み取ったことを言葉や数字を使って表現する力を身につけさせていく。
	質問紙	「先生は良いところを認めてくれる」の項目について、肯定的回答が全国平均を上回った。一方、「自分には良いところがありますか」の項目については消極的な回答が多く、今後さらに自己肯定感を醸成する取組を学校全体で進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

中学校区として、ねやがわスタンダードに即した授業展開の中で褒める、認めるなどの声掛けや道徳の時間・ディベート教育を通して、論理的思考と非認知能力の向上を図ることで、「確かな学力」を身に付けた子どもの育成をめざしていく。

【学校】

読書教育、SDGsを題材にプレゼンテーションを行う「わくわくプロジェクト」、ディベート教育など、教育活動全体を通して「考える力」を育成し、児童一人ひとりが自分の考えを捉えなおし、「主体的な深い学び」を体感できるよう研究・実践を重ねていく。